北信地域障がい福祉自立支援協議会　議事録

部会名	開催日時
令和５年度　第２回　幹事会	令和 5 年 10 月 27 日（金）14：30～16：00

参加者所属機関名等
北信保健福祉事務所福祉課、中野市福祉課、飯山市保健福祉課、山ノ内町健康福祉課、木島平村民生課、野沢温泉村民生課、栄村民生課、高水福祉会、北信圏域障害者総合相談支援センター

本日のテーマ、課題等
①相談支援専門員からの活動報告　②障害福祉計画について
③令和５年度第２回北信地域障がい福祉自立支援協議会の開催について　④その他

会議で話し合われた事

①　相談支援専門員からの活動報告

○療育
・別紙１参照
○ほくしん圏域就業・生活支援センター
・別紙２参照
○地域あんしんコーディネーター
・別紙３参照
○基幹相談
・別紙４参照

②　障害福祉計画について

○第７期障害福祉計画策定に向けた進捗状況
※別紙「北信圏域障害福祉計画・障害児福祉計画（案）」
・別紙の内容で中間報告を行い、県からのフィードバックから修正を行っていく。
○第６期障害福祉計画の進捗状況
・障害福祉計画の各部会との連携や上半期の進歩状況を確認した。

③　令和５年度第２回北信地域障がい福祉自立支援協議会の開催について

１、日時　令和５年１１月６日（月）13：30～15：30
２、会場　飯山庁舎　３階 大会議室
３、内容
①各部会上半期活動報告
②第６期障害福祉計画の進捗状況と及び第７期障害福祉計画中間報告
③【身寄り問題】についてのグループワーク
※会議終了後部会長会議を行う

④　その他

○高水福祉会より
障害福祉計画策定に係る高水福祉会の今後の事業展開について常務理事から報告があった。

別紙１

幹事会

療育部門からの報告

報告者　市村 綾子

担当者　坂爪麗子、邉田卓馬、小野真奈美

●活動状況

◎今年度は、新型コロナウイルス感染症の 5 類移行に伴い、対面での実施や時間の制限も解除され、コロナ前の状況に戻って協議できるようになった。

◎北信病院診療関係者連絡会(通称：ほっと研)では、信州大学医学部子どもの心診療部の本田 Dr.にアドバイスをいただきながら、北信病院のスタッフと地域の仕組みを共有やより良い地域連携に向けて進めている。今年度は「支援の継続・つなぎ」についての乳幼児期、義務教育の時期、卒業後の進路選択について等ステージごとの学習会を行ってきた。

◎地域全体として、お子さんだけでなく保護者、家庭全体への支援の必要性の認識が高まっている。家庭を支える資源や支援の在り方について関心が高まる反面、お子さん支援に比べて家庭支援の資源の乏しさも顕在化しており、既存の仕組みの中でどのように支えていくか各市町村で工夫を凝らしている。（下記「地域の課題」にも関連）

◎高校については、飯山高校、立志舘高校定時制、今後立志舘全日制の 1 年生の情報交換会を行っている。そこには、地域からは、飯山養護学校教育相談専任　教諭や市町村の担当者（家庭児童相談員）等と高校（教頭・特 CO・1 年担任　等）が参加し、顔が見える関係性の構築を図ることが目的。

◎今年度、保健師から医療的ケア児等コーディネーターにつながるケースが増え、早期からチームが構築され支援することができている。今後さらに、児と家族を支える為、地域の看護師・医ケア児等 Co の配置のしくみ化が望まれる。

●対応ケースの中で、困難事例・特記事例等

◎学校が抱えていたケース。

就学後は支援会議を重ねてきていたケースだったが、家庭支援が大きくなり SSW を中心に、長野市の司法行政や支援センター療育スタッフなど多くの機関が関わって支援しているケース。保護者支援や本人の学校での支援関係者の整理のために療育スタッフに声がかかり、整理とバックアップを通して関係者間の役割を整理し、今後の支援の方向性の統一を図って今後継続していく方向となった。

●地域の課題

◎サービス向上部会児童発達支援ネットワーク(通称:キッズねっと)にて昨年実施された「放課後等デイサービスに関連した課題の実態調査」をきっかけとして、「保護者のニーズに合致する資源の乏しさ」「ライフステージや児➡者への切り替わりを意識した相談支援の普及」「事業所の支援体制の維持向上の困難さ」などの相互に関連した課題が明らかになっている。現在、サービス向上部会及びそだちネットワーク部会にて課題解決に向けて検討を始めている段階。

別紙２

相談支援専門員の活動から

幹事会
令和５年９月29日
ほくしん圏域障害者就業・生活支援センター

就業支援ワーカー湯本精一　内田瞳　　**生活支援ワーカー**　岩下尚美

●活動状況から

・R5年８月末現在　センター登録者　221名（内在職者172名　求職者44名　その他５名）
短期トレーニング事業の実施件数８件
就職者　５件

○相談関係
今春よりこれまでのコロナ禍による各種制限が緩和されたこともあり、改めて就職や働き方に対する希望や期待感の高まりによる相談傾向はある。特に、登録に至らない「その日その時だけの相談」が多く、継続した支援体制と関係維持については各市町村およびハローワーク等関係する機関と連携していきたい。

○労働局主催の就職相談会等も以前のような対面式の開催が今秋予定されている。あわせて雇用を今後検討される事業所への雇用促進のための取り組みも計画してきており、雇用に向けた動きはさらに活発化していくことが想定される。

●対応ケースの中で、困難事例・特記事例など

○登録者の就職活動の状況について（報告）

・65歳以上かつ障害者手帳をお持ちの方のケース対応の中で、再就職に向けた活動を継続されている方が居られる。ご本人の状態や状況と希望職種、事業所とのマッチングが進まず、特に収入面での生活不安が想定される。独居のケースもあるため関係機関との共有を進めていきたい。

・新規にご相談を進める中で、一般就労ではなくサービス利用（就労継続支援）へお繋ぎするケースが出てきている。就労の準備性が整っていない、又は不十分なケースについては今後も必要な場合については基幹相談を中心に連携して支援を進めたい。

○コロナ感染に伴い休職中の在職者が回復し無事復職に至っている。発症から２か月間ほどでADLが急激に低下し、一時は自宅で寝たきりに近い状態であったが現在はほぼ発症前と変わらないところまで回復されている。

●地域の課題

○就労アセスメントの実施状況については各市町村と参加事業所、養護学校等協力を得ながら進められてきている。各種課題については今後も委員会内で検討を継続している。

別紙３

地域あんしんコーディネーターからの報告

幹事会
令和５年　９月　２９日
報告者　中嶋　咲

担当者　池田美香　中嶋咲

●活動状況から（相談件数4月1日～9月15 日）

《相談延べ件数》　316件　《実人数》　82人
《緊急相談》１２名
《空床利用》　８名
《一人暮らし体験利用延べ件数》 7件　《実人数》　5名

《緊急の受け入れ・対応》
・緊急空床受け入れ事業所との定期的な連携会議実施。
・はるかぜ、ながみねの職員会議に参加し、空床登録者の共有、緊急空床の利用状況について共有をしている。

《体験の機会及び場の確保》
・一人暮らしのおためしハウス　継続利用3名、新規2名。

《専門的人材の確保・養成》
・10月から随時「就労Ｂ型の加算」「精神障がい者の理解と対応方法」「発達障がいの暮らし」の研修を開催予定。

《地域の協力体制づくり》
・10月27日認定事業所の連絡会議実施予定。
「具体的な事例を通しての事業所の意見交換」

●対応ケースの中で、困難事例・特記事例など

・緊急空床の利用の相談として精神不安定の状態があり、空床利用ではなく医療機関に繋がったケースがあった。特に緊急空床の登録をしていないケースは情報がないので、見極めが難しいが、医療機関との連携の必要性は高い。

・高齢の親が主たる介護者になっている８０５０のケース。（行動障害、重度の知的障がい、引きこもり等）緊急時を想定し、空床への繋ぎ方として親以外の協力者として兄弟、親族、近所、民生委員等の確認を行っている。実際親族の協力があり空床に繋がっているケースがある。

●地域の課題・相談内容の傾向等から

・親亡き後の住まいの場としてご家族からはGHや入所施設の居住サービスニーズが高いが、利用者のニーズは在宅で生活すること。中には居宅のサービスを利用する事で一人暮らしが可能になるケースもあるが、金銭面や緊急時の対応を考え一人暮らしを悩む方が多い。また、重度の知的障がい、行動障害の方の住まいの場が不足している。（ハード面の整備、ソフト面の整備、ともに必要）

別紙４

幹事会

基幹相談からの報告

報告者　市村綾子

担当者　　川橋陽子、湯本孝、滝澤知紘、市村綾子
●活動状況　４月～９月 【委託相談】 ・委託相談の継続で定期面談・訪問の継続　　５０人 ・精神科病院から退院に向けた相談　　１２人（うち７人が計画相談に繋がる） ・新規相談から計画相談につなげた方　１８人 ・計画相談を終了され引き継ぎ受けた方　１人 【基幹業務】 ・相談支援専門員ネットワーク会議月１回 ・指定特定相談事業所へのアウトリーチ支援及び後方支援 ・市町村ケース進行会議 ・地域活動支援センター運営会議（雁木ぷらざ、ｔａｒｏ、ディホームこころ）
●対応ケースの中で、困難事例・特記事例等 【虐待の疑い事例やＤＶ事例】 ・妹夫婦のところに養子縁組した事例、本人の口座よりカードローンの支払いが開始となっている事例⇒無料の法律相談に同行 ・夫からの暴言や暴力があり離婚したいと思っているが気力もなく違う生活に移せない事例⇒現在休息入院中、退院後の支援体制と面談場所の検討。 ・兄弟の中で障害を持った子に対する父親の対応方法（虐待?事例⇒ケース進行会議の場で父親への支援者の役割を確認
●地域の課題（地域の実情として知っていてほしい事） ・上記事例のようなケースが市町村担当者と基幹相談センターで関わっているが、傾向として状況を把握していたが踏み込めずにいることが多く、虐待の疑い事例やＤＶなどがある場合、権利擁護の視点で関係者会議等を開き対応方法等助言の場がほしいと感じる。 ・引きこもっていた方がはたらきたくなってきた人の増。就労アセスメントに繋げた方が３人いる。 ・強度行動障害の方で在宅での生活が厳しくなってきている方が多くいる。現在相談支援ネットワークでも課題の抽出を行っている。
◎本日の幹事会で検討・ご意見等頂きたい事項（各部門からの報告を通じて）